

2022年度 第3四半期 決算説明会 資料

ファナック株式会社

本資料に記述されている業績見通し等の将来に関する記述は、主要市場における製品の需給動向、競合状況、経済情勢その他に不透明な面があり、実際の業績は見通しと異なる可能性があることをご承知おき願います。

2022年度 第3四半期累計（9ヶ月） 連結実績

（金額単位：億円）

	2021年度 第3四半期累計 (4~12月)		2022年度 第3四半期累計 (4~12月)		増減率 前年同期比
		売上高比		売上高比	
売上高	5,402	100.0%	6,361	100.0%	+17.7%
売上原価	3,194	59.1%	3,876	60.9%	+21.3%
営業利益	1,399	25.9%	1,472	23.1%	+5.2%
経常利益	1,615	29.9%	1,778	28.0%	+10.1%
特別損益	▲5		-		-
純利益	1,188	22.0%	1,298	20.4%	+9.3%
為替レート					
円/1USD	111.10		136.51		
円/1EUR	130.62		140.59		

純利益＝親会社株主に帰属する純利益

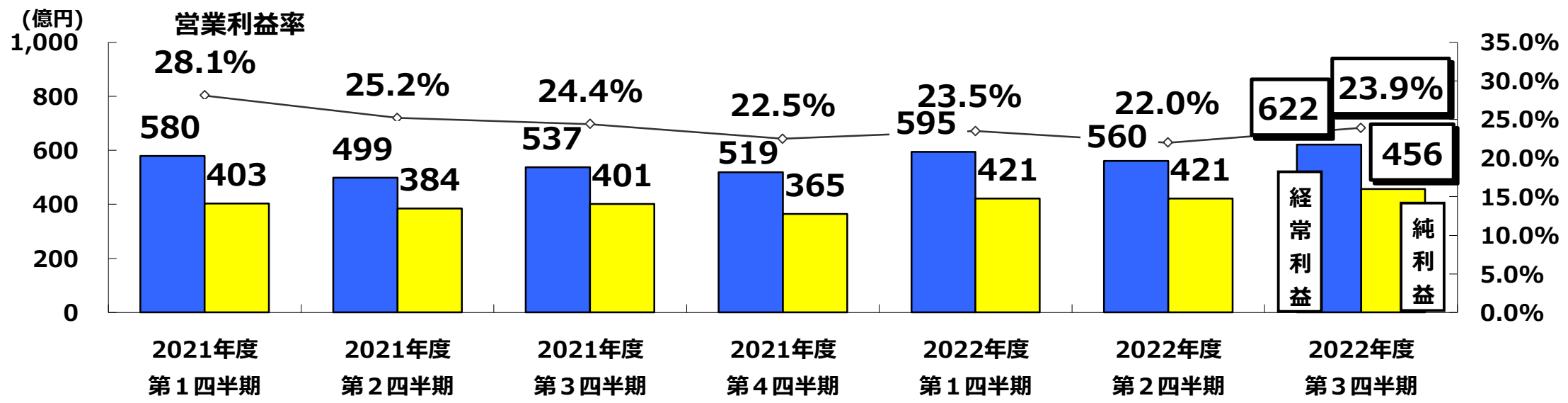
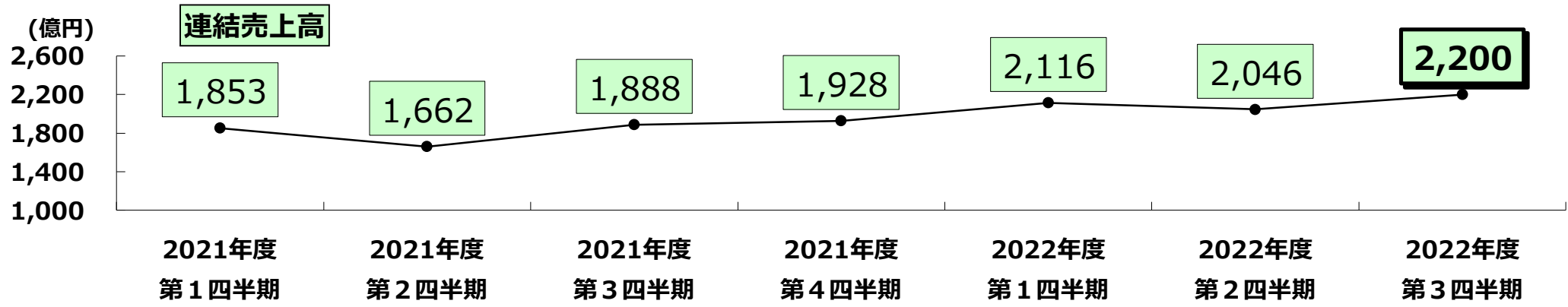
2022年度 第3四半期(3ヶ月) 連結実績

(金額単位：億円)

	2021年度 第3四半期 (10～12月)		2022年度 第2四半期 (7～9月)		2022年度 第3四半期 (10～12月)		増減率 前年同期比	増減率 前四半期比
		売上高比		売上高比		売上高比		
売上高	1,888	100.0%	2,046	100.0%	2,200	100.0%	+16.5%	+7.5%
売上原価	1,140	60.4%	1,254	61.3%	1,326	60.3%	+16.3%	+5.8%
営業利益	460	24.4%	449	22.0%	525	23.9%	+14.0%	+16.9%
経常利益	537	28.5%	560	27.4%	622	28.3%	+15.9%	+11.1%
純利益	401	21.3%	421	20.6%	456	20.7%	+13.6%	+8.3%
為替レート								
円/1USD	113.71		138.37		141.59			
円/1EUR	130.07		139.34		144.30			

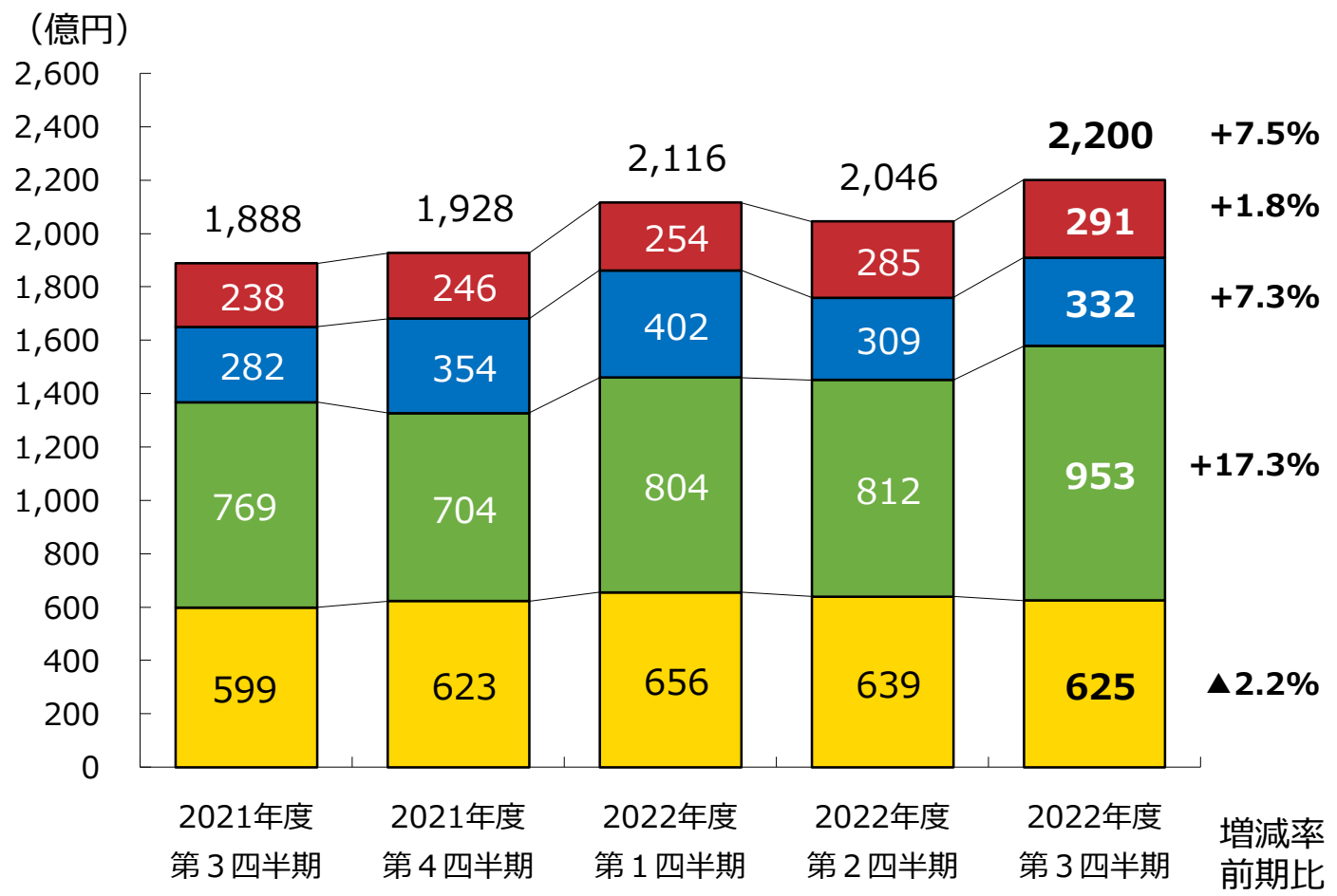
純利益＝親会社株主に帰属する純利益

連結売上高・損益 四半期推移



純利益=親会社株主に帰属する純利益

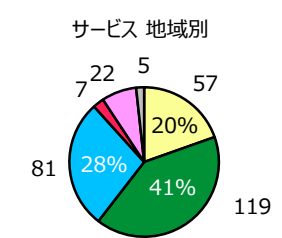
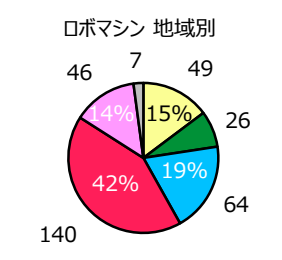
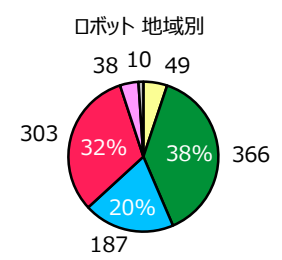
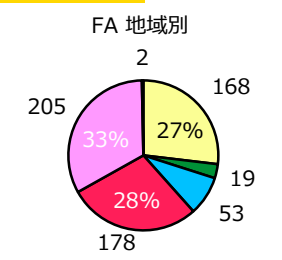
連結 部門別売上高



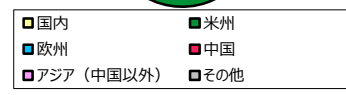
売上高合計が過去最高。

第3四半期（3ヶ月）の状況
〔2022年度第2四半期との比較〕

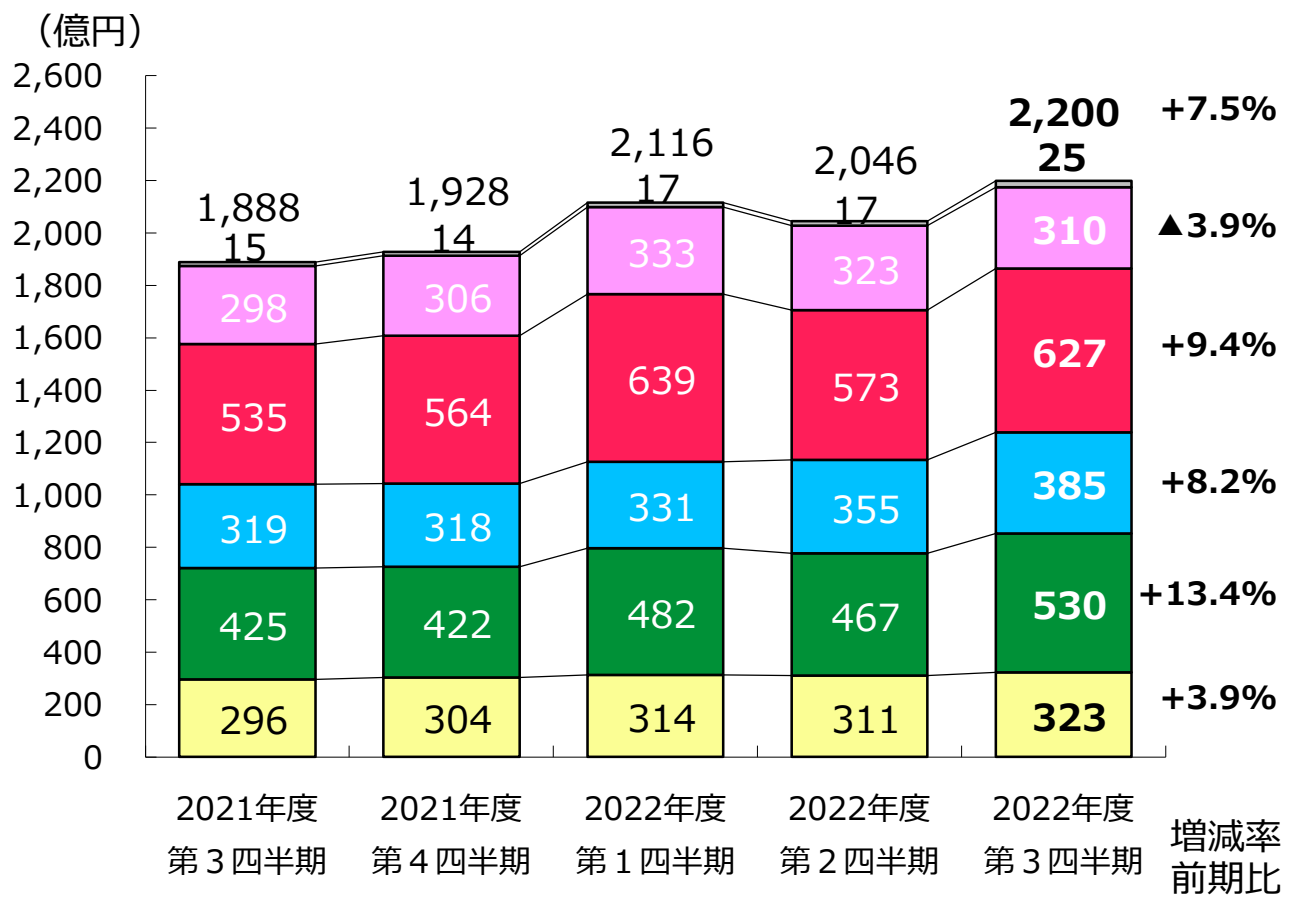
サービス	欧州で増加。
ロボマシン	国内、欧州、中国で増加。
ロボット	米州、中国で大幅に増加。 欧州で増加。
FA	台湾で減少。



※中国で持分法適用会社が行っているサービスの売上高は連結売上に含まない

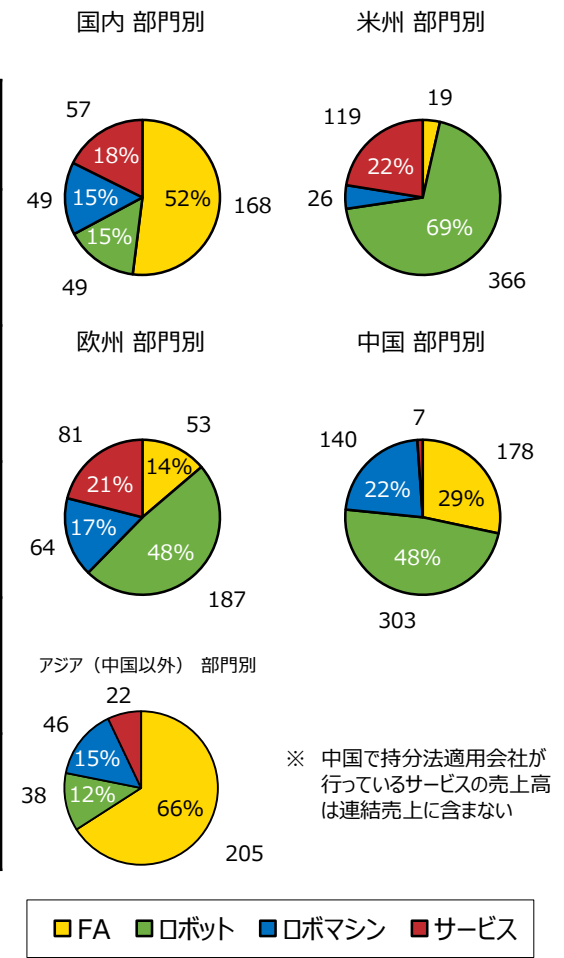


連結 地域別売上高

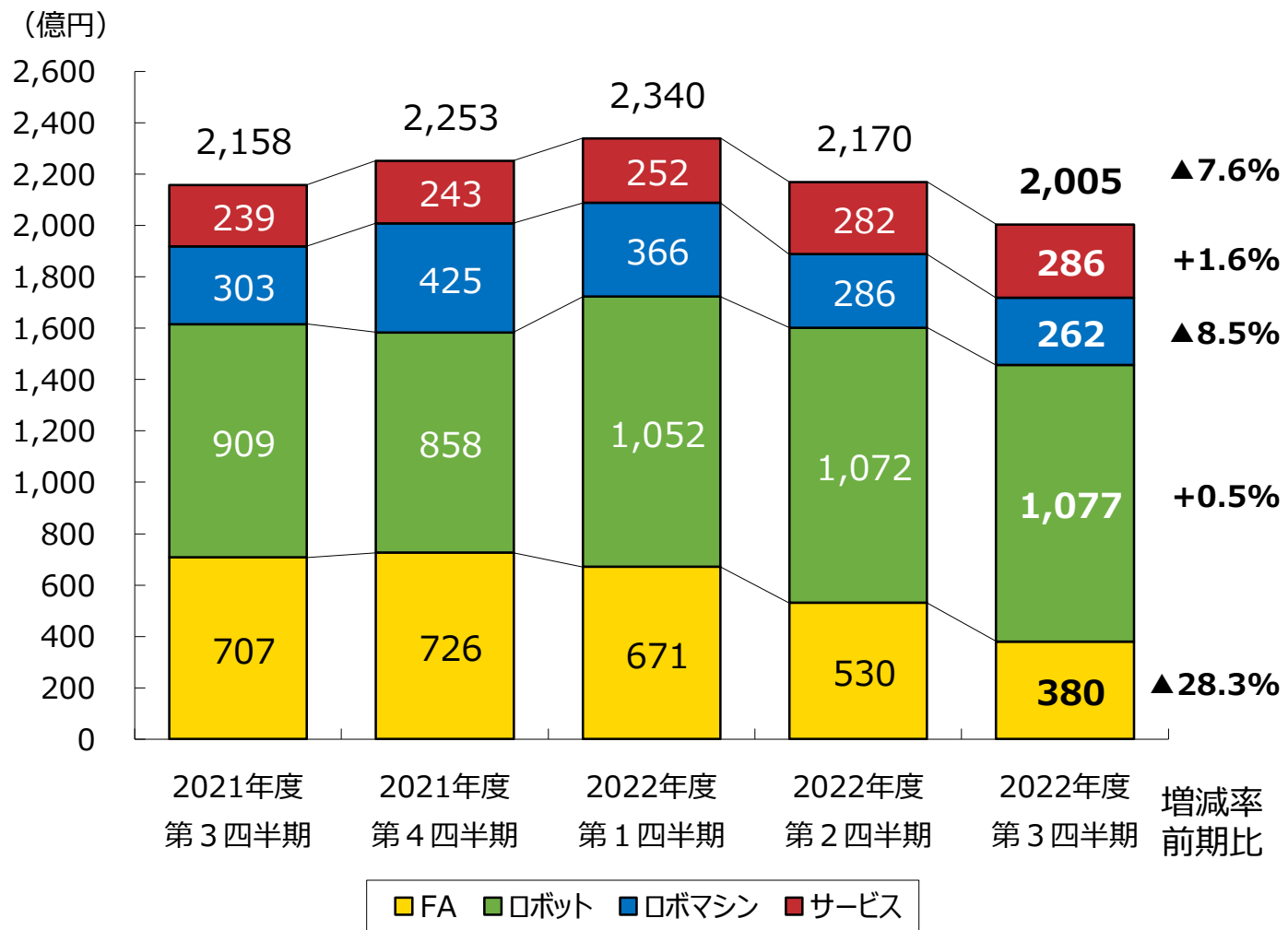


第3四半期（3ヶ月）の状況
〔2022年度第2四半期との比較〕

アジア (中国以外)	FAが台湾で減少。
中国	ロボットが大幅に増加。 ロボマシンが増加。
欧州	ロボット、ロボマシン、サービスが増加。
米州	ロボットが大幅に増加。
国内	ロボマシンが増加。



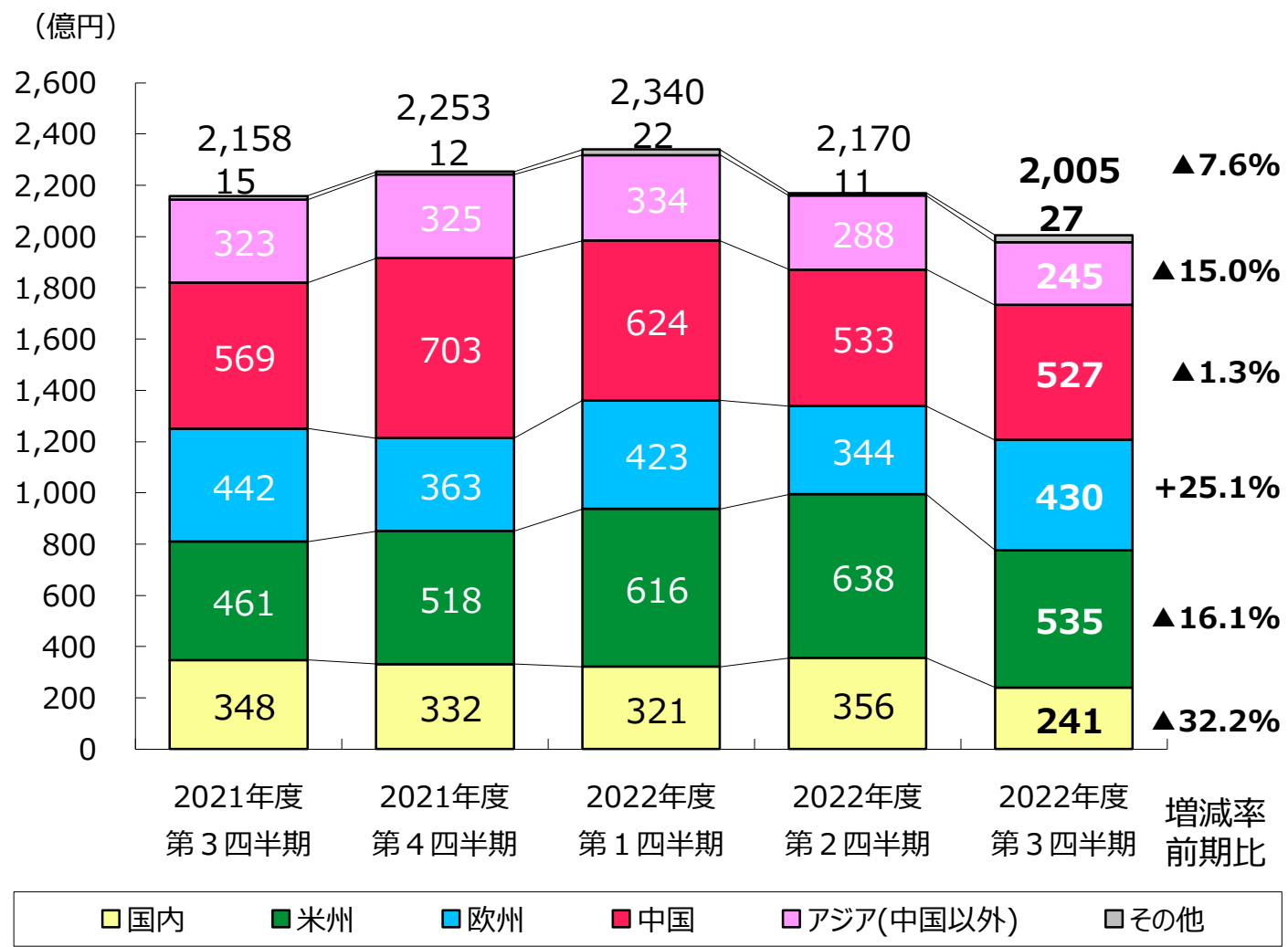
連結 部門別受注高



第3四半期（3ヶ月）の状況
〔2022年度第2四半期との比較〕

サービス	欧州で増加。
ロボマシン	中国で減少。
ロボット	欧州で大幅に増加。 中国で増加。 米州で減少。
FA	国内で大幅に減少。 韓国とインドで減少。

連結 地域別受注高



第3四半期(3ヶ月)の状況
〔2022年度第2四半期との比較〕

アジア(中国以外)	FAが韓国とインドで減少。
中国	ロボマシンが減少。 ロボットが増加。
欧州	ロボットが大幅に増加。 サービスが増加。
米州	ロボットが減少。
国内	FAが大幅に減少。

設備投資額・減価償却費・研究開発費

(金額単位：億円)

	2021年度 第3四半期累計 (4~12月)	2021年度 通期	2022年度 第3四半期累計 (4~12月)	増減額 前年同期比
設備投資額	194	411	377	+183
減価償却費	347	471	363	+16
研究開発費	367	500	377	+10

連結 通期業績予想

(金額単位：億円)

	2021年度		2022年度予想				増減率 前年比	増減率 前回予想比
			前回予想		今回予想			
		売上高比		売上高比		売上高比		
売上高	7,330	100.0%	8,057	100.0%	8,312	100.0%	+13.4%	+3.2%
売上原価	4,374	59.7%	4,925	61.1%	5,130	61.7%	+17.3%	+4.2%
営業利益	1,832	25.0%	1,817	22.6%	1,844	22.2%	+0.6%	+1.5%
経常利益	2,134	29.1%	2,170	26.9%	2,231	26.8%	+4.5%	+2.8%
特別損益	▲5		-		-		-	-
純利益	1,553	21.2%	1,595	19.8%	1,640	19.7%	+5.6%	+2.8%
為替レート								
円/1USD	112.38		131.99		133.63			
円/1EUR	130.56		134.36		139.19			

2022年度
第4四半期
為替レート想定

円/1USD 125円
円/1EUR 135円

純利益＝親会社株主に帰属する純利益

株式分割

1. 株式分割の目的

株式の分割により、当社株式の投資単位あたりの金額を引き下げ、株式の流動性を高めるとともにより幅広い層の投資家の皆さまに保有いただくため。

2. 株式分割の内容

① 分割の割合	1株につき5株の割合で分割
② 基準日	2023年3月31日（金）
③ 効力発生日	2023年4月 1日（土）

3. 株式分割により増加する株式数

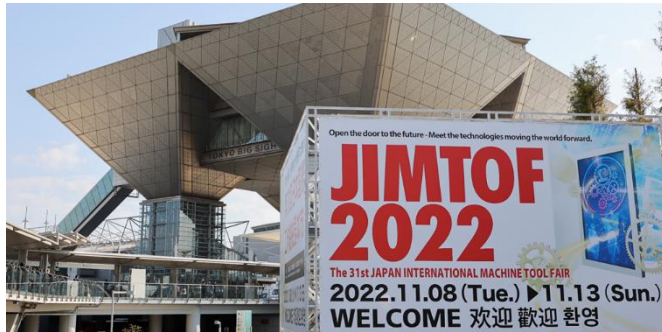
	発行済株式総数	発行可能株式総数
現在	201,909,397株	400,000,000株
株式分割後	1,009,546,985株	2,000,000,000株（※）

（※）今回の株式分割に伴い、会社法第184条第2項の規定に基づき、本日開催の取締役会決議により、2023年4月1日（土）をもって、当社定款第5条に定める発行可能株式総数を変更いたします。

JIMTOF 2022 出展報告 (1/5)

概要

Japan International Machine Tool Fair 2022



会期：2022年11月8日～13日

会場：東京ビッグサイト

出展社数：861社（前回2018は、1,085社）

来場者数：114,158名（前回比～75%）



- 4年振りのリアル開催で盛況（海外中心に出展社数、来場者数はやや減少）
- 労働力減少、省エネルギー化といった市場課題に対応した工程集約、ロボット化、デジタル化を各社がアピール
- ファナックもFA・ロボット・ロボマシン・IoT・サービスから総力を挙げて製造効率化への貢献をアピール

JIMTOF 2022 出展報告 (2/5)

FA展示

- 生産性向上に寄与する最新のCNC・サーボ商品および加工機能を紹介
- 加工の最適化を効率よく実現するCNCデジタルツインの高速・高精度シミュレーションに高い評価
- 省エネ・カーボンニュートラルに貢献するCNCシステム、制御機能、IoT活用の紹介が好評



JIMTOF 2022 出展報告 (3/5)

ロボット展示

- 様々なアプリケーションのロボット14台を展示し、連日多くの来場者で盛況
- 協働ロボットCRX-25iA体験デモにより、30kgワークとダイレクトティーチの軽い操作性をアピール
- M-1000iAによる重量鋳物搬送実演が、クレーン作業の置換え用途に好評
- 高速バラ積み取出し実演で自動経路生成による教示の簡易化をアピール



JIMTOF 2022 出展報告 (4/5)

ロボマシン展示

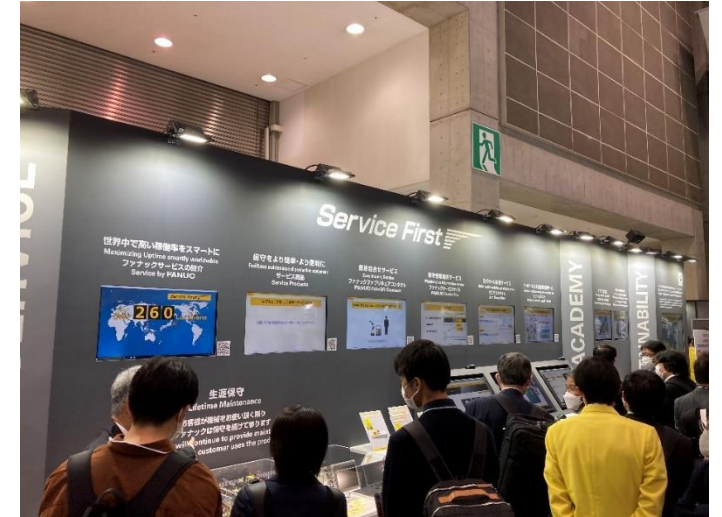
- ロボマシンの最新機種 7 台を出展（ロボドリル 4 台、ロボカット 2 台、ロボショット 1 台）
- 加工・成形実演により基本性能と信頼性の高さ、使いやすさをアピール
- ファナックの強みを活かした実用的なロボットシステム展示が好評
- 省エネルギー機能、稼働監視ソフトウェアによる消費電力とCO₂排出量の見える化が好評



JIMTOF 2022 出展報告 (5/5)

サービス展示

- AIサーボモータ、ZDT（ゼロダウンタイム）、会員サイト、サービス商品、FabriQR Contact（ファブリキュアコンタクト）、生涯保守を紹介
- 稼働率向上に繋がるIoT商品を利用した保守、ファナックと情報共有を容易にするツール、サービス基本方針の生涯保守への取組みをアピール
- IoTを活かした予防保全の取組み、スマートフォンを利用したお問い合わせサービス、他社に無い取組みと生涯保守が好評



サステナビリティ展示

- 省エネ・カーボンニュートラル（CN）を中心に、SDGsの観点からも広くファナックの取組みをアピール
- 商品の省エネ・CN機能は高評価。また、省エネ・CNに対して企業として取組みを始め、CO₂削減目標や行動計画を模索している来場者が見られた



太陽光発電の導入（1/2）

太陽光発電設備の導入状況

- 計4.3MWの太陽光発電設備について、2023年4月以降に稼働開始予定
本社工場：1.75MW、壬生工場：2.5MW、サービス拠点（安城：33kW、小倉：22kW）
- 2022年度導入分のCO2削減効果として、2,823t-CO2/年を見込む



本社（1.75MW）

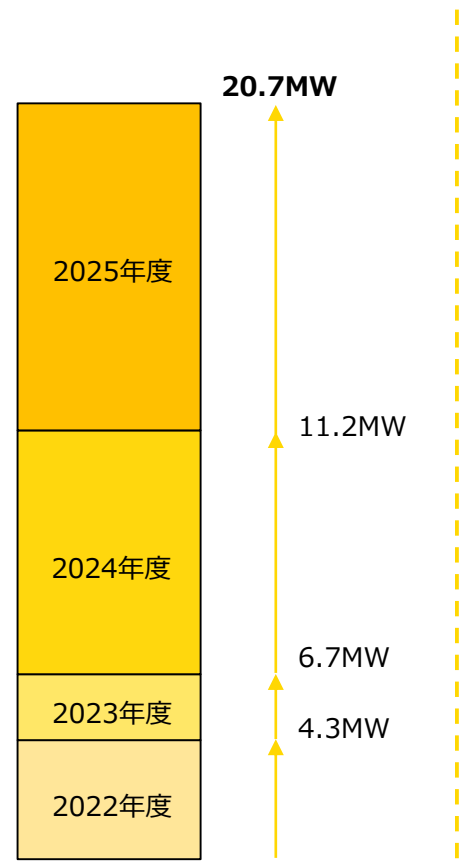


壬生工場（2.5MW）

太陽光発電の導入 (2/2)

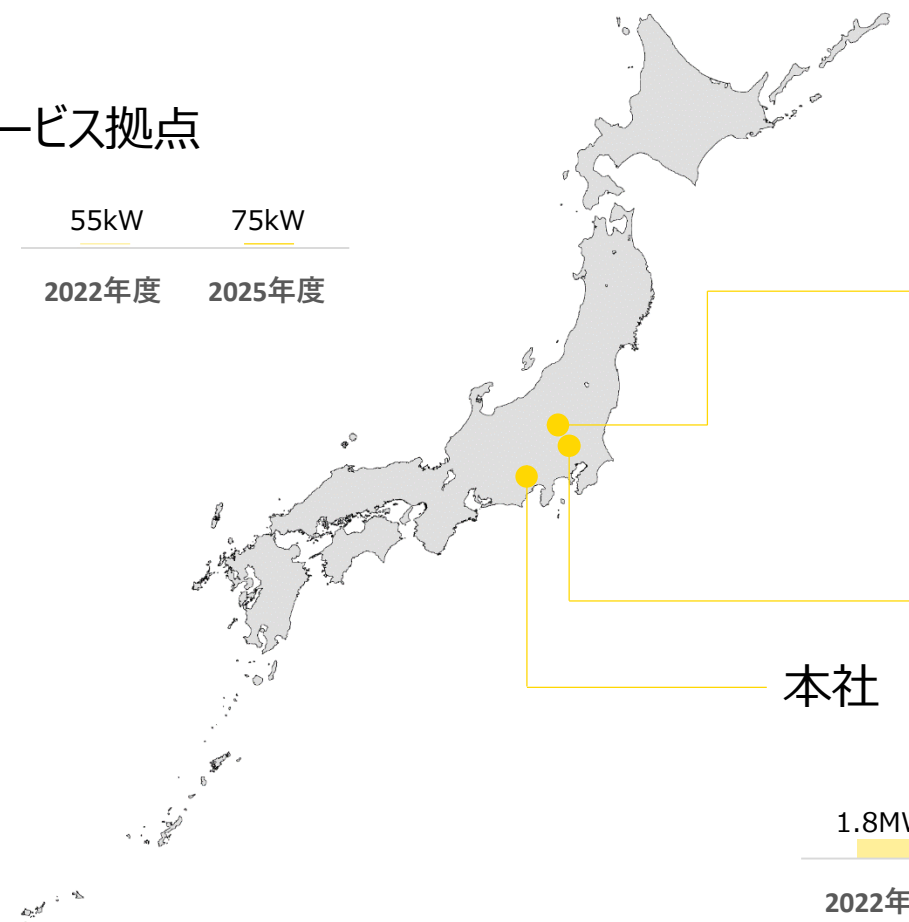
今後の太陽光発電設備の導入予定

- 2025年度までに約20MWの導入を見込む (CO2削減効果：約13,700t-CO2/年*)



サービス拠点

サービス拠点	2022年度 (kW)	2025年度 (kW)
本社	55	75



*当社グループのScope1+2排出量
145,429t-CO2 (2021年度実績)の
9.4%に相当

